

## 可児工場 バイオマスガス化設備運転開始について

地球温暖化問題は国際社会が一致して取り組むべき課題であり、当社及びグループ各社において、木くずを主燃料としたバイオマスボイラーの建設を進めるなど、CO<sub>2</sub>排出削減に積極的に取り組んでいます。

この一環として、当社可児工場(岐阜県可児市)において建設を進めてきました木くずを主原料とするバイオマスガス化設備(アップドラフト式ガス化炉)が完成し、11月より本格稼動を開始しました。

新設したバイオマスガス化設備は、これまで困難であった製紙用石灰焼成炉におけるバイオマスエネルギーへの燃料転換を実用化するものであり国内初となります。

バイオマスガスを石灰焼成炉で重油と混焼する事で重油使用量を半減するとともにCO<sub>2</sub>排出量が年間21,500トン削減となります。

可児工場では、既に蒸気製造用設備のオイルレス化を図っており、パルプ薬品工程(焼成石灰炉)や製紙工程(熱風炉)における化石燃料の削減に取り組んでいくことで工場の完全オイルレス化を目指し、化石燃料から地球環境にやさしいバイオマスエネルギーへの転換による環境保護に取り組めます。



バイオマスガス化設備

### 《新設バイオマスガス化設備仕様》

投資額 14億円

主に使用する原料 木くず(建築廃材・林地残材等)

バイオマス原料使用量 100トン/日

ガス化方式 アップドラフト式ガス化炉



バイオマス原料建屋